

最近の消費動向（個別ヒアリング）

12月の大型小売店の売上高は、農産物の相場高やクリスマス・ボーナス商戦が好調だったこともあり、10か月連続で前年同月を上回った。

大阪産業経済リサーチセンターでは、消費動向を把握するため、大型小売店、飲食店、電器店チェーンの計4社を対象にヒアリング調査を行った。

大型小売店では、和菓子やクリスマスプレゼント向けの革小物などが好調だったが、冬物衣料品は苦戦した。飲食店では、景気回復に伴いディナータイムの客数や宴会需要が増えている。電器店では、消費増税前の駆け込み需要がみられ、大型白物家電を中心に動きが活発である。

百貨店 A 社

12月の売上高の状況をみると、大阪市内での大型商業施設の新設・増床に伴う顧客の分散などもあり、全体の売上高は想定に及ばず、前年を下回った。

紳士服：クリスマスプレゼント向けのカジュアルで値頃感のある革小物のほか、ジャケット、ブルゾンで前年実績を上回ったが、コートやワイシャツ、ネクタイ、セーターなどで苦戦した。

婦人服：あまりトレンドの影響を受けにくい、40～60歳代向けのカジュアルファッションでは固定客が多いものの、若者客の来店が減少したこともあり、コートなどで前年を大きく下回った。

子供服：トドラーは前年並みとなったが、雑貨でブランド品の取り扱いが減少したことから、前年同月を下回った。

食料品：和菓子やA社の強みである生鮮食品では前年並み～微増で推移したが、惣菜などの不振やお歳暮・クリスマス商戦での伸び悩みもあり、売上高は減少した。

婦人靴：今シーズンのトレンドであるショートブーツの動きは好調が続くものの、ロングブーツの落ち込みが大きく、全体の売上高は前年を下回った。

化粧品：スキンケアやメイキャップは前年を下回ったが、ボディケアが大きく伸びたことから、全体では前年同月比で増加した。

宝飾：ジュエリーでは、パールの動きが好調であった。時計では、国産ブランド品が堅調に推移するも、海外有名ブランド品は一部商品の値上げなどに伴う客足の鈍化から不振となった。

スーパー B 社

12月の販売額は前年を下回った。後半は気温が低下したものの、月を通して冬物商品の動きが鈍く、衣料品は大きく減少した。食料品は、農産・畜産物が相場高で堅調に推移するも、クリスマスケーキやおせちなどの季節商材が苦戦し微減となった。住居関連は、一部家電で消費増税前の駆け込み需要がみられたが、季節商品の不振で前年を下回った。

顧客単価、買い上げ点数、来店客数とも、上記3分野は減少したが、特に衣料品の来店客数の落ち込みが大きかった。

衣料品：紳士のカジュアルパンツ、ソックス、婦人ブーツなどは好調に推移した。しかし、月前半の高気温で主力の機能性インナー、紳士・婦人のダウンコート類、婦人カジュアルパンツ、手袋などが苦戦したことから、後半の気温低下にもかかわらず、月間を通して概ね冬物商品の動きは芳しくなかった。

食料品：相場高が続く農産物は、白菜など年末の鍋物需要が好調で、前年を上回った。畜産物は、客数が減少したが相場高に伴う客単価の上昇で、売上は増加した。数の子、焼鯛、鮮魚造りなど販売期間の短い際物商品は、高単価品の動きが良く堅調に推移した。個別商品では、キャベツ、カットサラダ、リキュール類などが増加したが、焼き鳥用鶏肉、餃子しゅうまい、もちなどが減少した。

住居関連：消費増税前の特需で、冷蔵庫、エアコン、洗濯機、テレビ・レコーダーなどが顕著に伸びたものの、寝具（毛布・肌布団等）などの防寒関連商材、はがき収納ケースなどの季節商品が不調で、全般的に苦戦した。その他の商品では、アーケードゲーム（ゲームコーナーでの利用回数）、押入収納ケース、電動自転車などが増加したが、携帯電話、掃除機、TVゲーム機、カイロなどが減少した。

飲食店 C 社

売上高：郊外型和食レストランC社では、景気回復に伴いディナータイムや週末の客数が増えたことから、12月の売上高は前年同月比5%の増加となった。ボーナス支給や忘年会の時期とも重なり、座敷席での宴会予約が前年に比べて約2割増えた。予約の集中による機会ロスをなくすために、迅速な配膳・下げ膳による客席回転率の向上、宴会開始時間の平準化、空き座敷がある近隣のC社のチェーン店への

予約変更など、オペレーションを工夫している。

来店客数：12月の来店客数は、前年同月比で3%増加した。座敷席でのしゃぶしゃぶ食べ放題の人气が根強いのに加え、オプションで何十品目の一品料理が追加できるメニューも好調を維持している。利用客の約6割は女性で、週末の夕方など比較的早いディナータイムの来店が多かった。また、週末に割引サービスのあるモバイル会員制度を通じて、新規顧客も順調に獲得している。

客単価は前年とほぼ変わっていない。売上高全体の半分以上を占めるディナータイムは、人気のしゃぶしゃぶ食べ放題や鍋料理などが中心となり、単価はランチタイムよりも高くなる。なお、一日の平均客単価は1,200～1,300円である。

円安の影響で、えびなど一部で仕入価格の上昇はみられるも、長期契約や商社を介さない直接購入、商品開発の工夫などにより、調達コストの安定化を図っている。

独自の取組：25年12月にユネスコの無形文化遺産に登録された和食には、追い風が吹こうとしている。しかし、こうしたブームに乗ってしまうと、いずれその流れに負けるだろうと、C社は静観している。背伸びをすることなく、「健康的で明るく」をコンセプトに、顧客の期待を裏切らない地道な経営をめざしている。当業界の景況が好転しているとはいえ、本来の顧客層である家族客の利用が回復していない。C社では、低価格でも美味しい食材の選定など、他業態に負けない技術やサービスの蓄積に努めている。

電器店チェーンD社

売上高：全国に加盟店を持つD社では、エコポイン

トの反動減から立ち直り、25年の売上高は全ての月で前年を上回った。高齢化の進展や円安に伴う価格訴求力の低下などで、大手量販店から、小回りが利きアフターフォローができる「まちの電器店」へ流入客が増えたこと、水周り工事等の住宅設備需要が拡大したことなどが好調の背景にある。12月は、冷蔵庫や洗濯機等の大型白物家電、エアコンのほか、太陽光発電設備といった品目でも消費増税前の駆け込み需要が活発で、売上高は前年同月比で約20%の増加となった。

収益：需要の持ち直しや円安により、エアコンや液晶テレビなどの販売価格は底打ちから上昇に転じ、エコポイント導入前の水準に戻りつつある。特に、低価格帯商品の動きが顕著で、エアコンのなかには12月の販売価格が20%近く上昇した商品もみられた。また、少し高くても長持ちする商品を購入する傾向が強まるなど、消費マインドの回復に伴って客単価も5%程度上昇している。円安で仕入コストは上昇しているものの、売上高・販売価格ともに順調に推移していることから、10～12月期の収益は前年を上回っている。

独自の取組：毎月のカタログや手書きニュースレターの配布のほか、購入者へのお礼状の送付やメッセージを添えた景品の進呈などを通じて、顧客にリピートされる仕組みを構築している。また、AV機器の設置・設定の代行、照明の取り替え、家電品の使用説明など、家電に関する問題を解決するサービスを展開し、得意客のみならず新規顧客の開拓にもつなげている。紙媒体、ウェブサイトなどで店舗やスタッフの個性をPRしながら、地域の電器店で商品を購入する楽しさを伝えようとしている。

大阪府の消費に関する経済指標

(単位：百万円、台、%)

		25年	7月	8月	9月	10月	11月	12月
大型小売店計	販売額(全店ベース)	155,205	135,191	132,311	139,697	151,859	196,077	
	(前年同月比、全店ベース)	0.9	3.7	4.8	3.3	1.4	1.7	
	(前年同月比、既存店ベース)	▲0.1	2.5	3.5	2.0	0.4	0.2	
うち百貨店	販売額	82,684	63,131	64,596	70,278	80,223	107,061	
	(前年同月比、全店ベース)	2.4	8.3	8.6	5.7	1.8	3.3	
	(前年同月比、既存店ベース)	2.4	8.3	8.6	5.7	1.8	3.3	
うちスーパー	販売額	72,521	72,060	67,716	69,419	71,636	89,016	
	(前年同月比、全店ベース)	▲0.8	▲0.0	1.5	1.0	1.0	▲0.3	
	(前年同月比、既存店ベース)	▲3.0	▲2.3	▲1.1	▲1.5	▲1.2	▲3.3	
コンビニエンスストア販売(近畿)	販売額	130,482	129,755	119,146	122,976	118,922	126,912	
	(前年同月比、全店ベース)	5.0	3.8	3.9	5.3	6.0	5.8	
	(前年同月比、既存店ベース)	▲0.0	▲1.4	▲1.0	0.4	1.1	0.9	
乗用車新車販売	台数	19,873	16,135	22,849	18,339	19,037	18,586	
	(前年同月比)	▲9.2	▲0.9	12.8	17.7	12.6	21.4	
家電販売(近畿)	(前年同月比)	▲13.8	4.6	▲5.1	3.3	5.8	—	

資料：【大型小売店販売額】近畿経済産業局「管内大型小売店販売状況」。前年同月比は本店舗調整済の値。

【コンビニエンスストア販売額】近畿経済産業局「管内大型小売店販売状況」(参考資料)。

【乗用車新車販売台数】(社)日本自動車販売協会連合会、(社)全国軽自動車協会連合会。

【家電販売額】近畿経済産業局「近畿経済の動向」。